9. 今後の読書環境作り（生徒）　※全校アンケート結果 比較 R5.11実施

～理由～

〇楽・簡単・手軽だから

〇便利だから　〇どこでも読めて，かさばらない

〇自分の好きな本を簡単に借りることができるから

〇本の種類が豊富だから　〇家には無い本が読めるから

〇学校で教えてもらって興味があったから

◇漫画を読むため

◇本を借りにいけない時に利用している

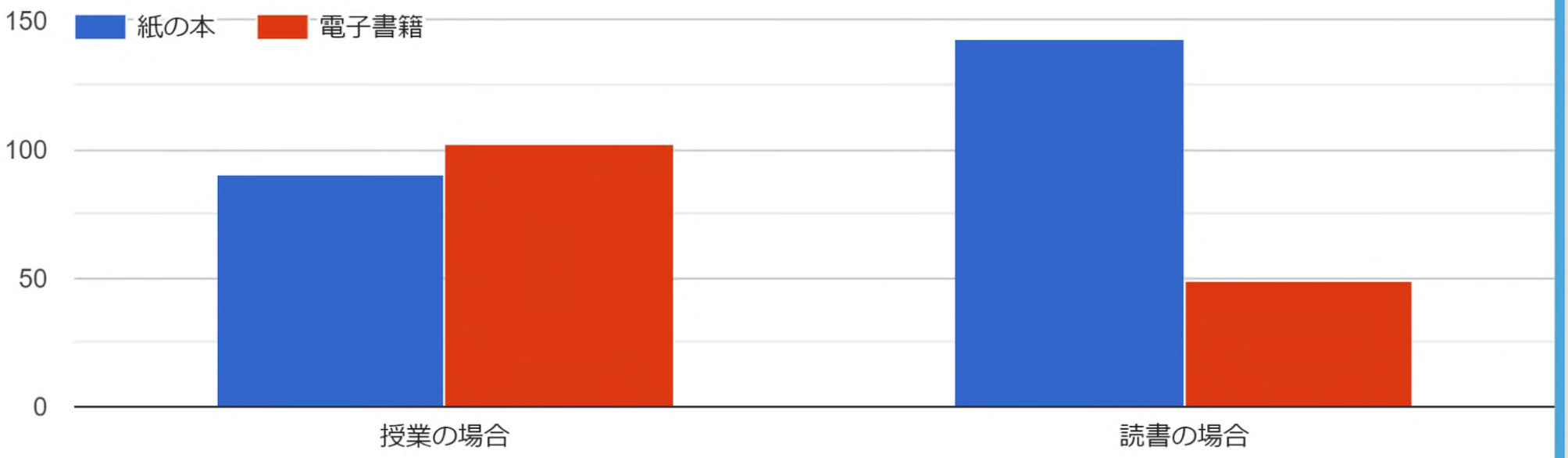
◇試し読みの短い文章を読めるから

◇本がなかったから

◇授業で使うから

9. 今後の読書環境作り（生徒）　※全校アンケート結果　比較　R5.11実施

24.　「紙の本」と「電子書籍」では，どちらの方が使いやすいですか？



9. 今後の読書環境作り（生徒）　※全校アンケート結果 比較 R5.11実施

～理由～　＊授業の場合

<u>電子</u>

○スクリーンショットができる　○ページがめくりやすい
○すぐ検索できる　○すぐ開くことができる
○机の場所をとらない　○早くて正確　○拡大できる
△目が疲れる　△ページがわかりにくい　△反応が遅い時がある
△詳しく調べられるけれど，不確かな情報もあるから

<u>紙</u>

○丁寧に調べられる　○本の使い方がわかる
○紙のほうが読んでいる実感ができる　○紙で慣れているから
○探すのに便利　○好きな所をすぐ読める　○読みやすい
○わかりやすい

9. 今後の読書環境作り（生徒）　※全校アンケート結果 比較 R5.11実施

～理由～　＊読書の場合

電子

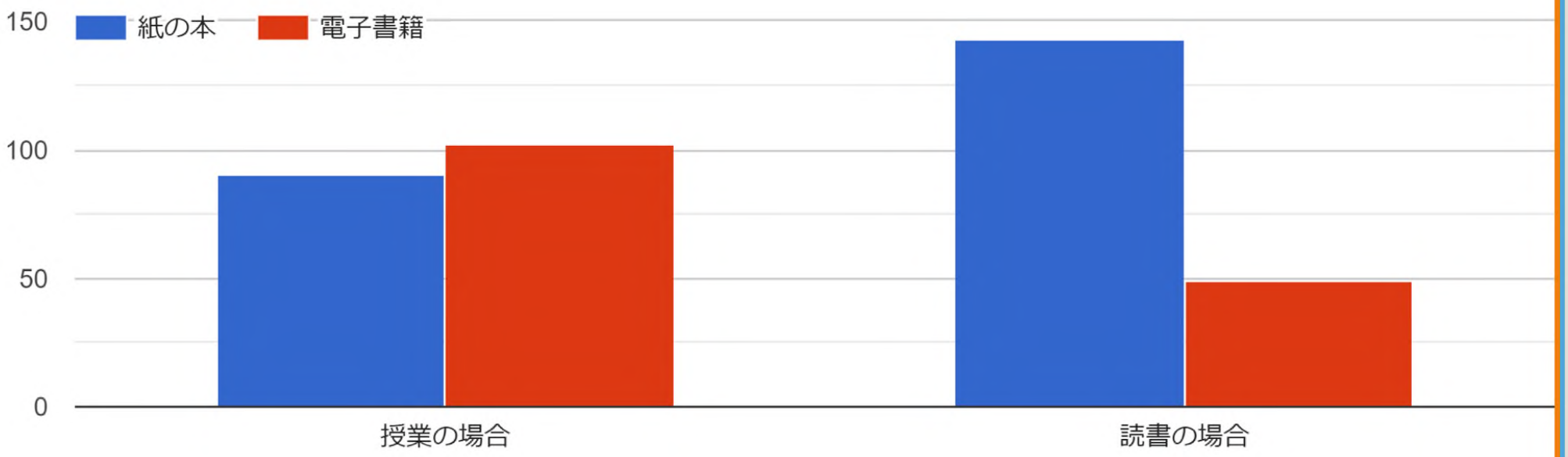
○読みやすい　△反応が遅い　△充電が切れるから
○大きい本や小さい本を同じくらいの大きさで読めるから
○貸出が楽だから　○1つのタブレットで色々な本が読めるから
○読んでいた続きから読める　△目が痛くなるから　△ややこしい
○急いで読みたいときに使える　○探す必要がない
○付せんを使わずに保存できる

紙

○見やすい　○本の内容を理解しやすい　○目が悪くならない
○読み応えがある・達成感がある　○接続しない読めて便利
○自分の読みたいページを好きなように読めるから
○ページをめくるときのわくわく感があるから
○本を家にしまっておくことが好きだから
○タブレットを持ち歩くより軽い　○紙やインクのにおいが好き

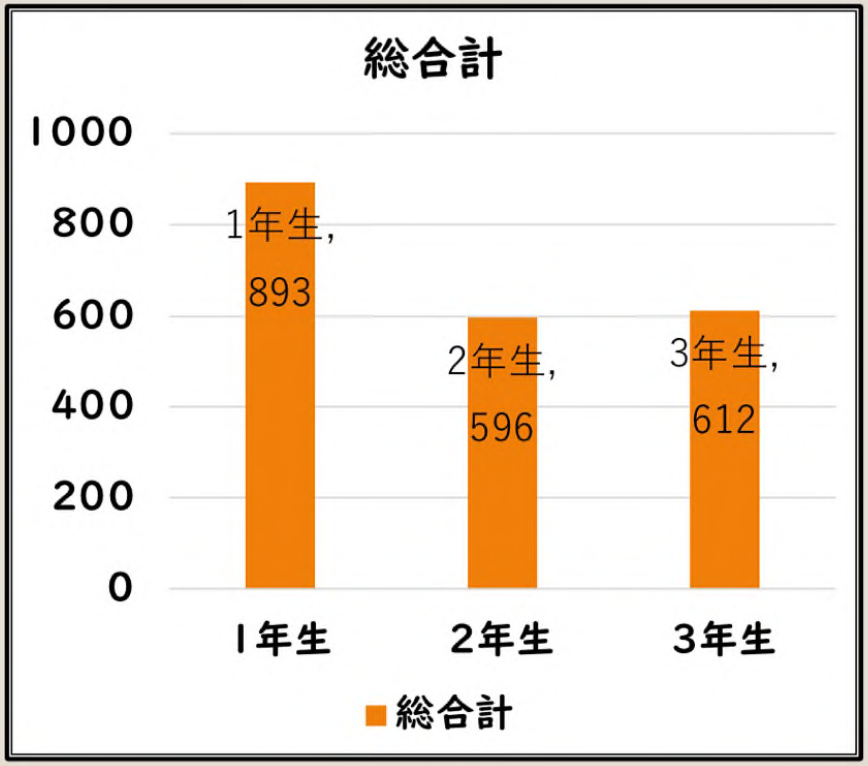
9. 今後の読書環境作り（生徒）　※全校アンケート結果　比較　R5.11実施

24.　「紙の本」と「電子書籍」では，どちらの方が使いやすいですか？

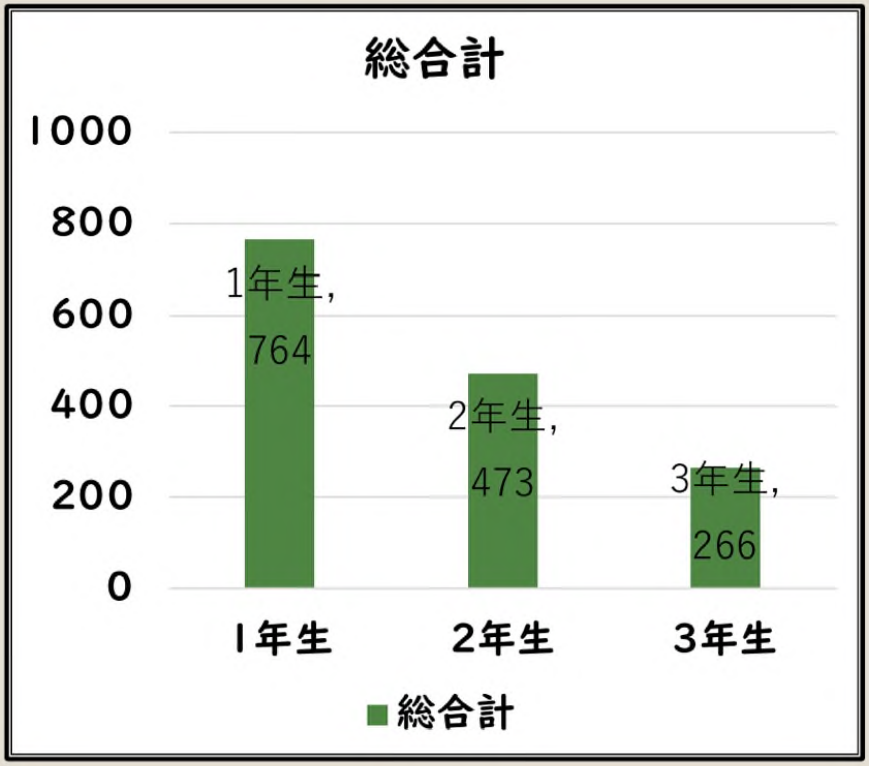


9. 今後の読書環境作り（生徒）　※令和５年4月～11月2日　図書室利用調査

貸出年報



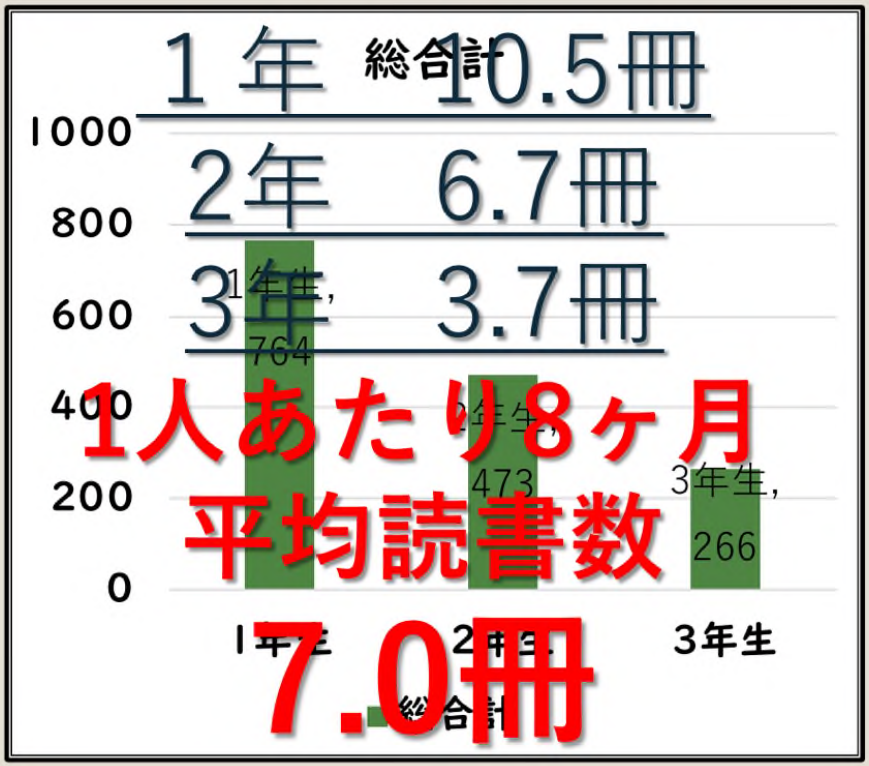
貸出年報



9. 今後の読書環境作り（生徒）　※令和５年4月～11月2日　図書室利用調査

貸出年報

貸出年報

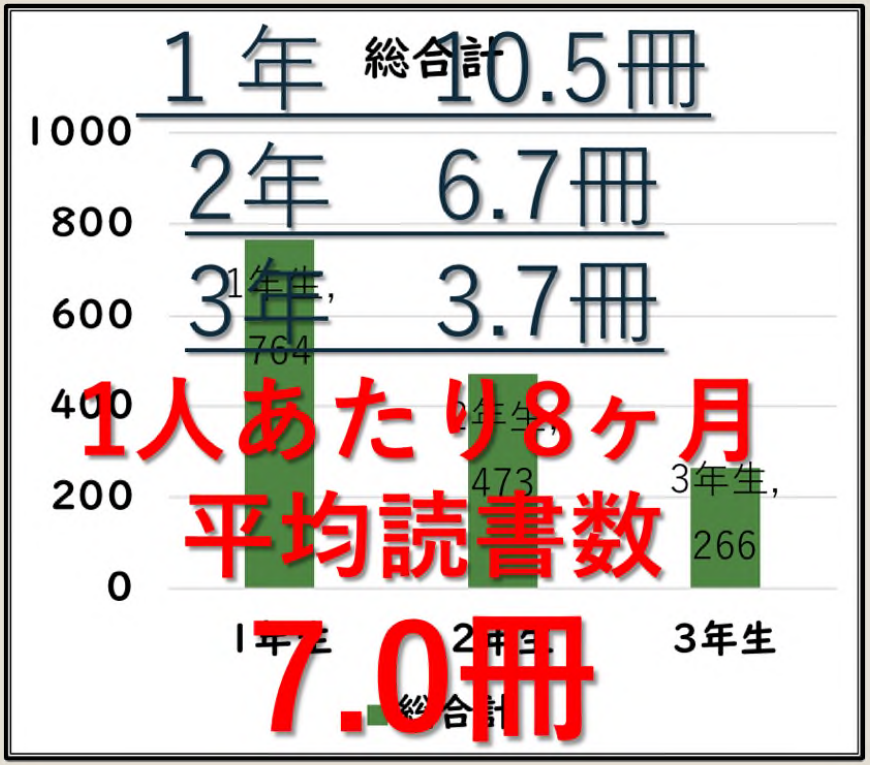


9. 今後の読書環境作り（生徒）　※令和５年4月～11月2日　図書室利用調査

貸出年報

1人あたり
２０２２年
平均読書数
17.2冊

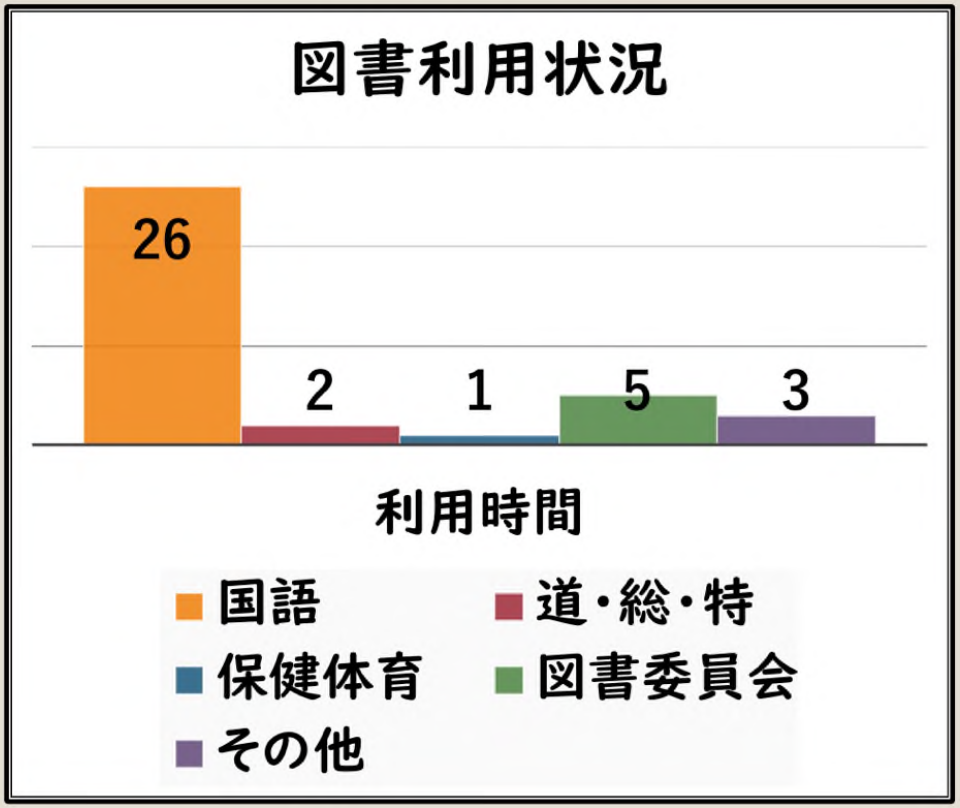
貸出年報



9. 今後の読書環境作り（職員）　※令和5年11月　職員アンケート

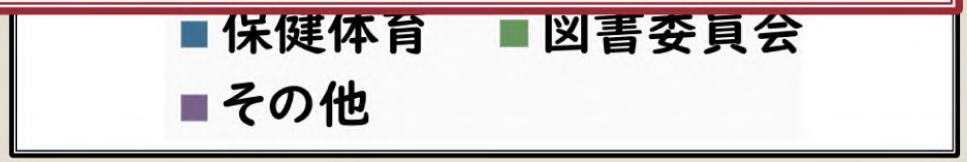
・教科での偏りが見られる。

・意識的に使う機会は見られていない。



9. 今後の読書環境作り（職員）　※令和5年11月　職員アンケート

総合　国語　職員個人貸出
職員室　保健室　保健体育
音楽　英語　技術・家庭科
相談　生徒指導　委員会



9. 今後の読書環境作り（職員）　※令和5年11月　職員アンケート

～成果～

〇タブレットに慣れた生徒が，図書資料で調べる経験を積めた。

〇情報の収集の取捨選択をしながら取り組めた。

〇読みやすい書物なので，導入で意欲を高めるのに役立った。

〇これから幼稚園で交流があり，その後読み聞かせをするので，絵本選びや読み聞かせ練習に役立てられる。

〇タブレット端末を絡めると資料の蓄積ができる。

9. 今後の読書環境作り（職員）　※令和5年11月　職員アンケート

～実践してみて～
〇紙とデジタルのそれぞれの良さがあるので，共存させるための研究になった。
〇タブレットに慣れた生徒が，図書資料で調べる経験を積めた。
〇情報の収集の取捨選択をしながら取り組めた。
〇読みやすい書物なので，導入で意欲を高めるのに役立った。
〇これから幼稚園で交流があり，その後読み聞かせをするので，絵本選びや読み聞かせ練習に役立てられる。
〇タブレット端末を絡めると資料の蓄積ができる。
△タブレットでは，準備するための時間が必要になる。
△生徒は積極的に取り組んでいたが，本よりタブレットで調べる生徒が多かったように感じる。時間に余裕を持てれば，本での調べ学習が進んだように感じる。
△インターネットに頼りがちなので，資料の良さを伝えながらの展開が必要でした。
△教科によっては，実践が難しい。
△電子書籍が海外向けの仕様となっているため，日本製になるとよい。

仮説Ⅰ：学校図書館やタブレット機能を生かした表現活動を工夫することで，自己表現力を高めることができるだろう。

※『仮説①』成果（○）と課題（△）

○幅広い表現方法を知ることができた。

○横断的な授業にすることで各分野での特性を生かしながら,図書資料を扱えたり,表現力のアドバイスができたりした。

○中台中の国語科における図書活用のシステムが構築し,段階を踏んでの表現活動を取り入れることができた。一年次では,興味関心を高めて相手に伝えるための工夫を考える。二年次では,近代文学が好まれる理由やフレーズについて興味を抱かせ,POPに適した内容を読み取る。三年次では, 自分の感想をどのように伝え,相手への興味関心を引き出すかを吟味するという表現の方法の幅を広げることができた。

○司書との協力体制を作り,生徒がいつでも見直し,表現活動に生かせるツールを作ることができた。

▲情報収集の方法として,タブレットに偏る部分がある。図書資料の正確性を理解させて,さらなる活用を図りたい。

▲市立図書館に完成したPOP作品を掲示していただいたが,著作権の面で難しい点があった。

仮説２：図書館との連携やデジタル図書室の活用により，読書や資料活用への意欲が高まることで，様々な考え方に触れ，生徒の視野や視点が広がることで，豊かな心をはぐくむことができるだろう。

成果（○）と課題（△）

○クラスルームのフォームで本の相談やリクエストを通して，司書と生徒のコミュニケーションを図り，個々の読書に対する関心や読書率を上げる一助となっている。

○イベントやデジタルで図書情報を配信することにより，図書室への関心度を高められた。

○紙の本，電子書籍で読むかの取捨選択を生徒自身で行い，利点によって使い分けられるようになっている。

○教科を問わない図書館の活用ができた。

▲タブレット使用のきまりがあるため，タブレット利用に躊躇してしまう生徒や使用判断が難しい場面があるので，さらなる浸透を図る必要がある。

▲イベントでは，図書館利用を増やすものだけでなく，本とのふれあいを考えたものを取り入れる必要がある。

▲司書と司書教諭の連携が大事だと感じた。余裕を持って，近況状況を確認できる時間の確保を今後も継続できるとよい。

ご清聴ありがとうございました。